

科目名称：	保育方法論	
担当者名：	山田 紀子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	講義	1
授業の目的・テーマ		
<p>本授業では、保育方法について、その理論と方法を実際の子どもたちの事例を通して学び、理解していく。さらに、学生同士で考える学習の場をつくり、実践の現場から把握し、適切な保育方法を考える力を身につける。保育の基本は、「環境を通して行う」ことであり、子どもの遊びやそこで生まれる人間関係を通して子どもの理解を深め、子ども同士が影響し合える環境を構成し、より豊かな学びができるよう学生同士で考えていける学習の場とする。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>保育方法の基本を学び、乳幼児期にふさわしい保育方法への理解を深める。実際の教育現場での事例を提示することで、保育を深めるための視点を理解し、実践の現場で適切な保育方法を考える力を身につける。</p>		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身につけている。	
DP(2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。	
DP(3)	幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	○
DP(4)	学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身につけている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP(1)					0
幼児教育DP(2)					0
幼児教育DP(3)	60		20	20	100
幼児教育DP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》保育士	《経験年数1》 12年4か月
	《内容2》幼稚園教諭	《経験年数2》 19年
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考
<p>乳幼児期の心身の発達支援や対応についての技能を身につけ、保育理解を深める。保育現場での事例から、学んだことなどをまとめ、表現し考えを深めていく。また、授業や実習の経験から、自分の課題を見出す力を身につける。</p>

到達目標ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
環境を通して行う保育についての理解	保育は環境を通して行っていくということを十分に理解し、保育実習に生かすことが出来る。	保育は環境を通して行っていくことを理解し、保育実習に生かすことが出来る。	保育は環境を通して行っていくことを大体理解し、保育実習に生かそうとしている。	保育は環境を通して行っていくということを、理解しようと努力する姿が見られない。
総合的な遊びの理解	子どもの遊びは、総合的であることを十分に理解し、その場に応じた遊びを考えることが出来る。	子どもの遊びは、総合的であることを理解し、遊びを考えることが出来る。	子どもの遊びは、総合的であることを大体理解し、遊びを考えようとする。	子どもの遊びは、総合的であることを、理解しようと努力する姿が見られない。
一人ひとりの特性への理解	年齢の発達を理解し、それぞれの子どもたちの特性を把握し、その子に応じた関わりを持つことが出来る。	年齢の発達を理解し、それぞれの子どもたちの特性を把握し、対応することが出来る。	年齢の発達を理解し、それぞれの子どもたちの特性を把握し、対応しようとする。	一人ひとりの子どもたちの特性を、理解しようと努力する姿が見られない。
グループ討議への参加	事例を基に子どもの思いやかかわりなどを、他者の意見を取り入れまとめて伝えることが出来る。	事例を基に子どもの思いやかかわりなどを、他者の意見を聞き、自分の考えを伝えることが出来る。	事例を基に子どもの思いやかかわりなどを、他者の意見を参考にし自分の考えを伝えることが出来る。	事例を基にしたグループ討議に参加し、意見を伝えようとする努力が見られない。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 保育における指導と援助の基本(演習事例・グループディスカッション)	シラバスを精読し、保育方法の基本を考えておく。	30分
第2回 乳幼児の理解と保育方法(演習事例・グループディスカッション)	子どもの内面的理解とは何かを考えておく。	30分
第3回 環境による保育とは(演習事例・グループディスカッション)	子どもにとって環境の持つ意味を考えておく。	30分
第4回 遊びによる総合的指導(演習事例・グループディスカッション)	子どものとって遊びとは何かを考えておく。	30分
第5回 保育における個と集団(演習事例・グループディスカッション)	集団の育ちとこの育ちについて考えておく。	30分
第6回 子どもにふさわしい園生活の展開	乳幼児期にふさわしい生活の展開とは何かを考えておく。	30分
第7回 発達に応じた保育の在り方「保育方法」(演習事例・グループディスカッション)	保育の計画と実践について自分なりに考えておく。	30分
第8回 保育の計画と実践	演習事例を基に指導計画とは何かを自分なりに考えておく。	30分
第9回 遊びを発展させるための指導案の立て方と事例の検討(身近な素材を使つての指導案)	遊びが展開できる指導案とはどのようなものかを考えておく。	30分
第10回 全日指導案作成①(“遊び”を事前に調べての教材活用法の検討(ICTの活用))	教材を考えて指導案作成の準備しておく。	30分
第11回 遊びによる総合的な指導方法(ねらい・導入・まとめについて検討)	ねらいや導入について自分なりにしっかりと考え、指導案を作成しておく。	60分
第12回 実習体験での問題点と学び	実際に実習を体験しての学びなどをまとめておく。	30分
第13回 全日指導案作成②(実習経験を踏まえての指導案の作成)	具体的に身近にある素材を使った遊びを考え、指導案を作成しておく。	60分
第14回 DVD視聴による教育現場の理解(ICTの活用)	保育現場での安・衛生面について考えておく。	30分
第15回 授業のまとめと今後の実習に向けての課題	次の実習に対して自分の課題を考えておく。	60分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(レポート)をまとめることになる。

成績評価の方法・基準
定期試験は、60%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。 提出課題 20% 授業への積極的関与 20%

課題に対するフィードバック
授業内・次回までのプリントは評価し、返却する。

教科書・参考書
教科書：なし 参考書：「保育方法・指導法の研究」(森史郎・渡辺英則・大豆田啓友編著、ミネルヴァ書房) 「指導計画の考え方・立て方」(久富陽子著、萌文書林) 「指導計画の考え方とその編成方法」(玉置哲淳著、北大路書房) 授業中に適宜資料を配付する。 *記入プリント配布